

新名神高速道路（滋賀県域）における橋梁の色彩検討について

西日本高速道路(株) 正会員 ○松尾 祐子 非会員 川西 良宜
NEXCO 西日本コンサルタンツ株式会社 非会員 渡辺 美佐子

1. はじめに

新名神高速道路 大津～城陽間のうち、滋賀県域（約12.2km）は山間部を通過する計画であり、そのうち計画路線延長の半分にあたる約5.7kmが三上・田上・信楽県立自然公園を通過する（図1）。豊かな自然環境に恵まれた地域を通過するにあたり、高速道路の構造物のなかでも橋梁が自然景観に与える視覚的影響は決して軽微なものでなく、十分な配慮が必要である。そこで有識者で構成された景観検討委員会を設立し、周辺の景観特性及び景観予測を踏まえて、自然景観と調和する「鋼橋（橋桁）の色彩」及び「橋梁付属物の意匠」について検討を行った。

本稿は、そのうち「鋼橋（橋桁）の色彩」の検討経緯について報告するものである。

2. 基本条件について

2.1 環境特性および条件の整理

色彩検討に先立ち環境特性および法令等の条件整理を行った。大津市は「自然と歴史と時代の文化が響きあう古都大津の景観を創り、育てる」を景観づくりの基本理念としている。対象橋梁沿線は市の景観計画で「山地景観地域」に指定されており、自然と谷あい広がる農村集落が一体となった特徴ある景観を保全する必要がある。なかでも検討対象の4橋のうち、上中野橋・吉祥寺川橋・宮川橋付近は瓦屋根や木壁造りの

家屋が多く歴史となつかしさを感じさせる景観であり、信楽川橋付近はニュータウン的な造りの家屋が並び美しい自然の中に新しさを感じさせる景観である。

2.2 色彩検討に対する考え方

橋梁と自然景観との調和の方向性として、橋梁を自然景観に馴染ませるもしくは自然景観を引き立たせる方向と、自然景観を背景に橋梁を目立たせる方向（強調）が考えられる。

本検討では環境特性等を踏まえ、対象橋梁には前者の役割が必要であると考え、「自然景観の魅力を引き立て、歴史の風格を感じさせる橋」をコンセプトとした。

2.3 候補色の抽出

周辺景観と調和した色彩とするため、候補色は現地調査を実施して得られた地域の色彩（風土色）から選定した（図2）。調査の結果、風土色は全体的に暖かみがあり鮮やかさを感じられる色彩群に集中したことから、その中からさらに鋭さや重々しさを与える青～緑系統の色相を除き暖かみのある赤～黄系統の色を候補色とした（図3）。

3. 色彩選定の方針

各橋梁は景観特性が異なり、また各視点場から同時に視認されないことから、個々の景観条件に柔軟に対応するため各橋梁それぞれ別の塗装色を検討する方針とした。



図1 橋梁位置図

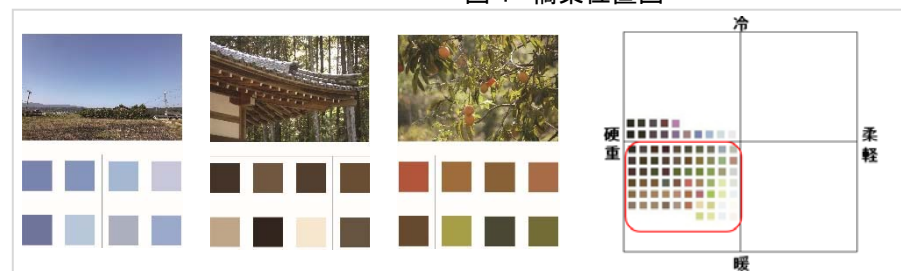


図2 風土色調査の結果

深みのある赤色	10R2/2	
赤みがかった茶色	5YR2/1	
茶色がかった灰色	10YR3/0.5	
こげ茶色	10YR2/1	
瓦をイメージした灰色	N2.5	
暖かみのある白色	2.5Y8/0.5	
柔らかい灰色	5Y6.5/0.5	
暖かみのある灰色	5Y5/1	

図3 候補色一覧

キーワード 橋梁景観、色彩検討、自然環境

連絡先 〒520-0026 滋賀県大津市観音寺 18-1 西日本高速道路(株) TEL077-526-8893

4. 色彩の検討

4.1 上中野橋

上中野橋は大部分が山の木々に隠され、遠景からわずかな部分が視認されるのみである。よって山の風景に溶け込ませるためできる限り低明度で色味の



図4 上中野橋

ない「赤みがかった茶色 (5YR2/1)」を選定した (図4)。

4.2 吉祥寺川橋

4.2.1 遠景視点への配慮

吉祥寺川橋は遠方からも視認され桁が長く存在感があり、周辺には和風建築の民家が点在する。背景の山々を引き立たせるため彩度の低い色を選定し、さらに瓦屋根の色と合わせ統一感を出した (選定色:茶色がかった灰色 (10YR3/0.5))。また四季の写真でフォトモンタージュを作成し、どの季節でも景観を損なわないことを確認した (図5)。



図5 吉祥寺川橋 (遠景)

4.2.2 威圧感の検証

吉祥寺川橋は近隣に民家が存在することから、フォトモンタージュを用いて橋脚等のコンクリートとのコントラストが小さく高明度



図6 吉祥寺川橋 (近景)

である選定色が、威圧感になるべく与えないことを検証した (図6)。

4.3 宮川橋

宮川橋は遠景から橋梁全体が視認される。背景の山々が少し離れているため、かすんだ印象とならず自然景観を引き立てられるよう明るく彩度の低い「茶色がかった灰色 (10YR3/0.5)」を選定した (図7)。



図7 宮川橋

4.4 信楽川橋

4.4.1 威圧感への配慮

信楽川橋は近隣に民家が存在し、背景が空で見上げる視点となるため威圧感への配慮が課題であった。そのため暗い色を避け、コンクリートとのコントラストが小さく明度の高い色を選定する方針とした (図8)。

4.4.2 デザイン性向上の工夫

信楽川橋は桁に波形鋼板ウェブを採用していることから、白色を採用することで影を強調させ、デザイン性を引き立たせた。ただし真っ白にすると桁の厚みが気になることから「暖かみのある白色 (2.5Y8/0.5)」を選定した (図9)。



図8 信楽川橋 (近景)



図9 信楽川橋 (遠景)

5. おわりに

本景観検討は橋梁形式が既に決定しておりできることが限られている中で、各橋梁の景観特性をふまえた細かい配慮を行うことができた。今後は付属物の検討も含め、検討した内容を工事に反映していく。

謝辞：本検討にあたり景観アドバイザーとしてご助言いただきました滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授 村上修一先生ならびに京都市立芸術大学大学院美術研究科教授 藤本英子先生に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 尾崎真理, 佐久間彰三: 風土色による色彩学のすすめ. 彰国社, 2006.